

# 安心ネットづくり促進協議会

## ILASサブワーキング報告

### (中間報告)

2017年2月27日

安心ネットづくり促進協議会

普及啓発作業部会 ILASサブワーキング

リーダー 齋藤 長行（株式会社KDDI総合研究所）

1. 安心協ILASとは
2. 2016年度 安心協ILAS 実施概要
3. 2016年度 安心協ILAS 中間報告
4. 安心協ILAS活用事例

# 1. 安心協ILASとは

- 総務省により、青少年のインターネット上の危険・脅威に対応する能力を可視化するテスト（ILAS）が開発され、高校1年生を対象に、2012年より実施。
- これら総務省の成果を援用し、安心ネットづくり促進協議会が保護者から小学生まで調査対象を広げて、テストを受けるだけでも気づきや理解につながることを目的とするテストを2013年より実施している。

## ■インターネットを安心安全に活用するためのリテラシー項目

※全21問が下記の7つのリテラシー項目のいずれかに分類

1. インターネット上の違法コンテンツ、有害コンテンツに適切に対処できる能力	
1-a	違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる
1-b	有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる
2. インターネット上で適切にコミュニケーションができる能力	
2-a	情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる
2-b	電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる
2-c	利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる
3. プライバシー保護や適切なセキュリティ対策ができる能力	
3-a	プライバシー保護を図り利用できる
3-b	適切なセキュリティ対策を講じて利用できる

## テスト問題（全21問）

### 【設問例】

次の中で法律上、18歳未満では【利用してはいけない】ものはどれか。

- (1) コミュニケーションのためのアプリケーション
- (2) 視聴制限はないが、ホラーに分類される映画の紹介サイト
- (3) 人との出会いを目的とするサイト
- (4) 言葉や内容の意味がわからない



- 1. 全ての関係者への勧告
    - a) 保護者及び子どもへの支援
    - (子どもを保護する一義的な責任は親、全ての関係者は親を支援する責任)
    - b) インターネットの利点と表現の自由等の尊重
    - c) 子どもの年齢及び技術革新への柔軟な対応
  - 2. 政府の国内取組への勧告
    - a) 明確な政策目標の特定等によるリーダーシップの発揮
    - b) 関係者による協調的な対応の支援
    - c) 官民の複数の政策の整合性の確保
    - d) オンライン上のリスクに重点をおいたインターネット・リテラシーの授業を導入する他、教育者に訓練を行い関係者による保護者及び子どものリテラシー教育を支援、
      - 子どもと保護者のインターネット・リテラシーの進化を定期的に評価することの奨励
    - e) 子どものインターネット利用、政策の影響評価などについての定期的な調査実施、
      - 科学的根拠に基づく政策支援の奨励
    - f) インターネット上の子どもを保護する技術の開発と採用の奨励
  - 3. 政府の国際取組への勧告
    - a) 国内機関の国際的なネットワーク強化
    - 国際指標の策定等政策の国際比較分析に向けた基盤の整備
    - c) 啓発成功事例の共有等による地域的・国際的な取組の支援
    - d) 国際的・国内的な機関、取組の連携強化
- \* 勧告における「子ども」=原則として18歳以下の全ての個人/5年以内の見直し規定あり。



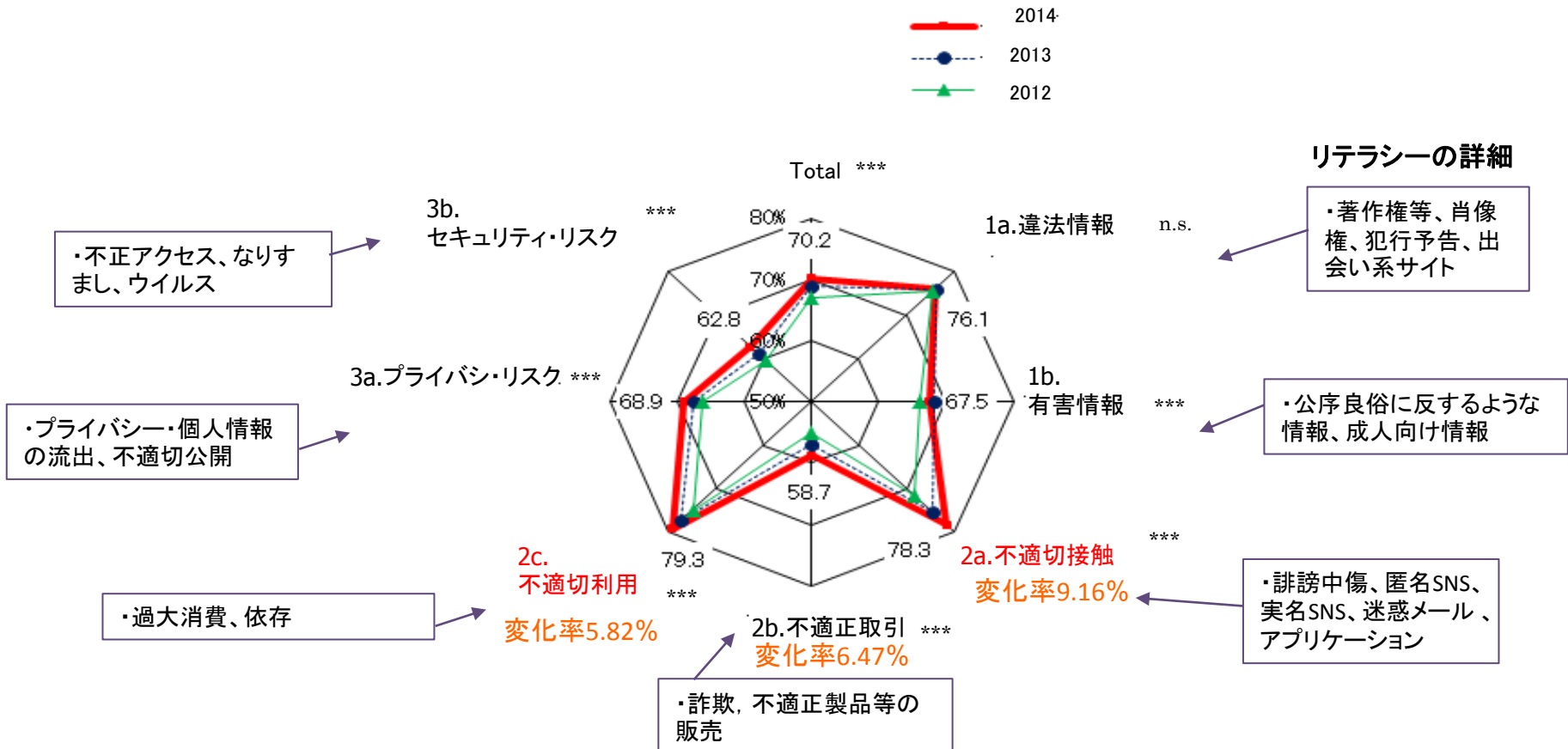
全国調査



啓発・調査

# 2012-14年の青少年のインターネット リテラシーの推移

- 違法情報( I a)を除く6つのリスク項目においてリテラシーの進展が見られ、それを裏付ける検定の結果でも優位に差があると言える。
- 特にリテラシーの変化率が大きかったリスク項目としては、以下であった。
- 不適切接触の変化率が9.16%、不適正取引の変化率が6.47%、不適切利用の変化率が5.82%
- 特にインターネットで適切にコミュニケーションできる能力に関するリテラシーの進展が顕著であった。
- これらのことから、15歳青少年のインターネットを適切に活用する能力は上昇傾向にあると評価でき、啓発教育政策の効果が現れてきていると考えられる。

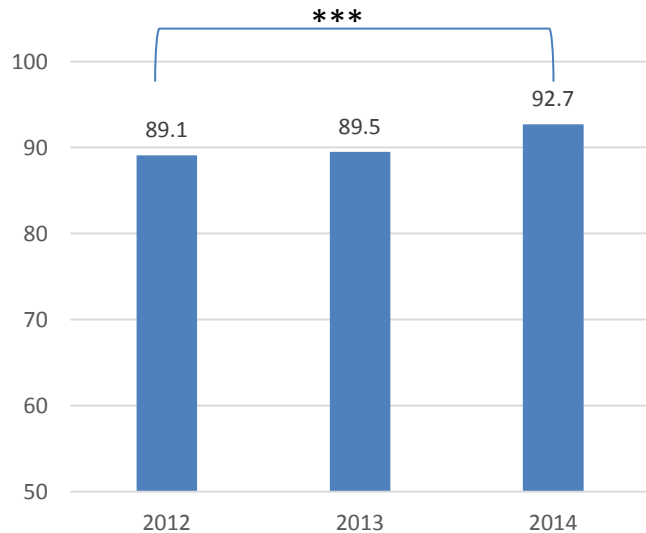


# 2012-14の啓発教育経験の推移

- 2012-14年の間の学校における啓発教育受講経験は上昇している。
- 学校で教育を受けた経験者は、2014年において92.7%であった。
- 家庭において啓発教育者は2014年において50.4%、2012年と14年を比べた変化率は50.9%となった。
- 学校における啓発教育と青少年のリテラシーとは弱いながらも相関が見られた。
- 啓発教育の実践が、国内に浸透してきていると言える。

## 学校における啓発教育の経験

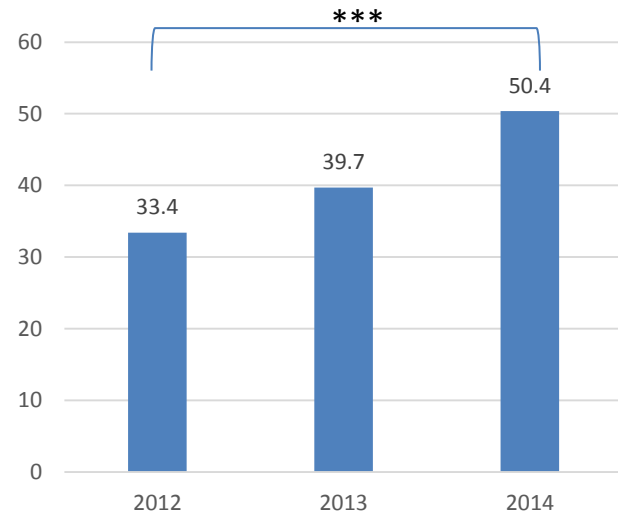
変化率4.0%



学校における啓発教育の機会数と  
リテラシーとの間の相関  $r=0.25$

## 家庭における啓発教育の経験

変化率50.9%



家庭における啓発教育の機会数と  
リテラシーとの間の相関  $r=0.11$

# 2012-14年の学校における啓発教育の 受講形態の推移

- 通常授業による啓発教育の受講経験は、2012年において50.8%であり、2014年では75.3%まで増加している。
- 特別授業の受講経験の割合を見てみると、2012年において37.6%であったのに対して、2014年では17.1%に減少している。
- さらに、啓発教育の未受講者の割合の推移を見てみると、2012年において10.9%であった未受講者が、2014年では7.5%に減少している。
- 学校における啓発教育の実践は、通常授業よる提供の割合が増加していると言える。
- 学校における啓発教育の実施体制が進展しているものと考えられる。

年度	被験者数	通常授業(%)	特別授業(%)	その他(%)	未受講(%)
2012	2108	50.80%	37.80%	0.50%	10.90%
2013	3037	47.10%	41.20%	1.20%	10.50%
2014	3594	75.30%	17.10%	0.10%	7.50%

### 実施目的、実施結果概要

- 青少年および保護者のネット利用理解度の可視化
- デバイスの利用状況および意識の調査
- 保護者の保護管理状況と安全利用に対する意識の調査
- テストとのクロス分析により、青少年と保護者のリスク回避能力とデバイスの利用状況および意識との関係の分析評価・啓発に繋がる調査を行う

区分	テスト仕様	総数	中間報告対象	
			人数	有効回答数
保護者	中高生&保護者版(3択)	1,377	550	500
高校生	中高生&保護者版(3択)	416	218	212
中学生	中高生&保護者版(3択)	674	470	454
小学生	小学生版（○×式）	599	356	348
合計		<b>3,066</b>	<b>1,594</b>	<b>1,514</b>

中間報告は、初期実施分を集計しております

有効回答率:95%

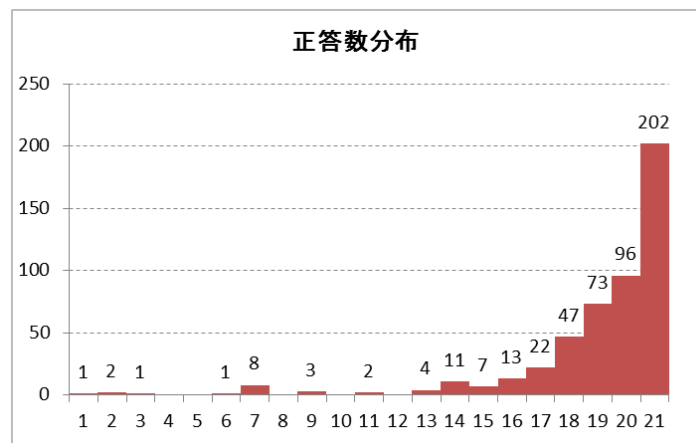


### 3. 2016年度 安心協ILAS 中間報告

# 【正答数分布図】

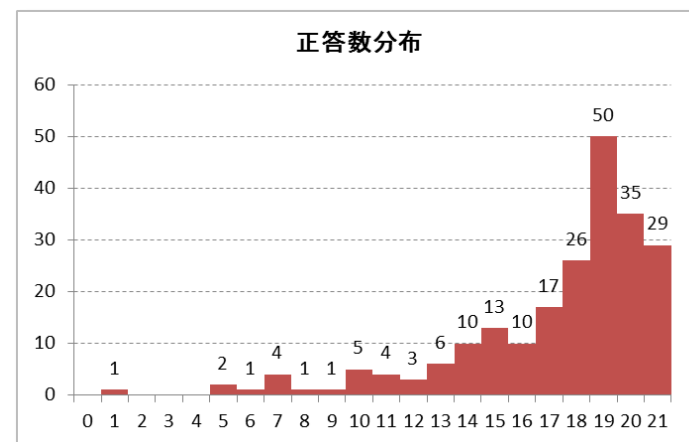
## 保護者

正答率	中央値	最頻値	標準偏差
89.6%	20	21	3.77



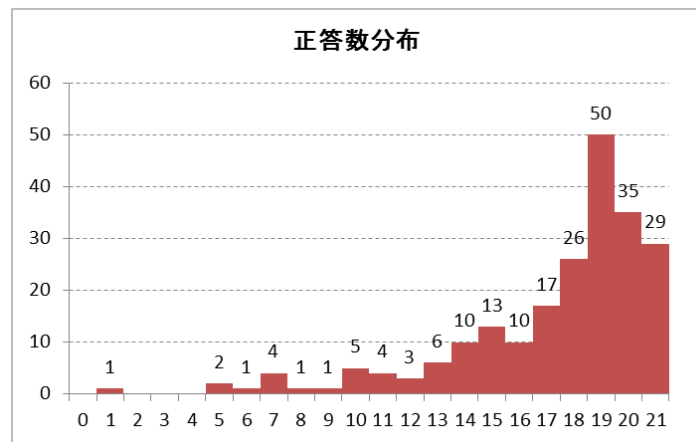
## 高校生

正答率	中央値	最頻値	標準偏差
82.6%	19	19	3.66



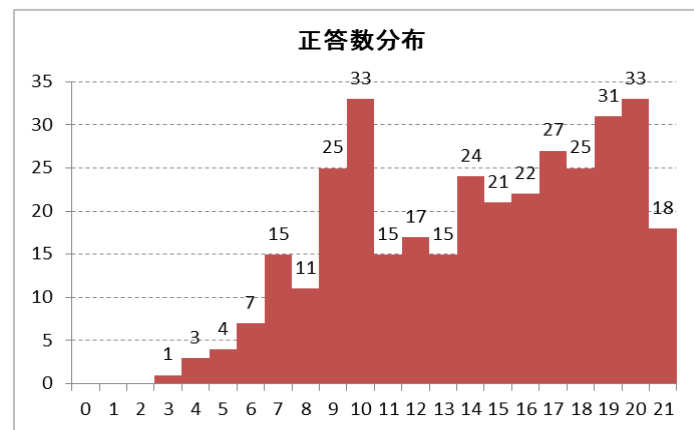
## 中学生

正答率	中央値	最頻値	標準偏差
77.0%	19	21	5.21



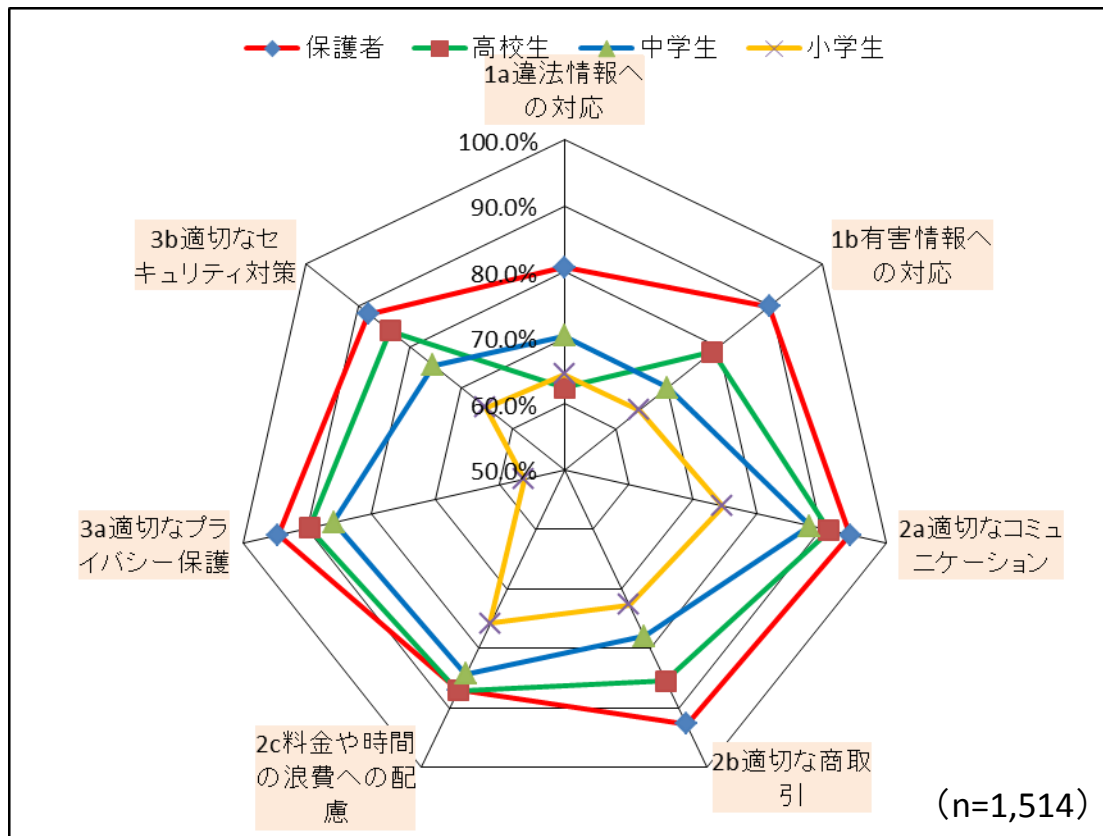
## 小学生

正答率	中央値	最頻値	標準偏差
67.7%	15	10	4.58



# 【リスク分類別の正答率】

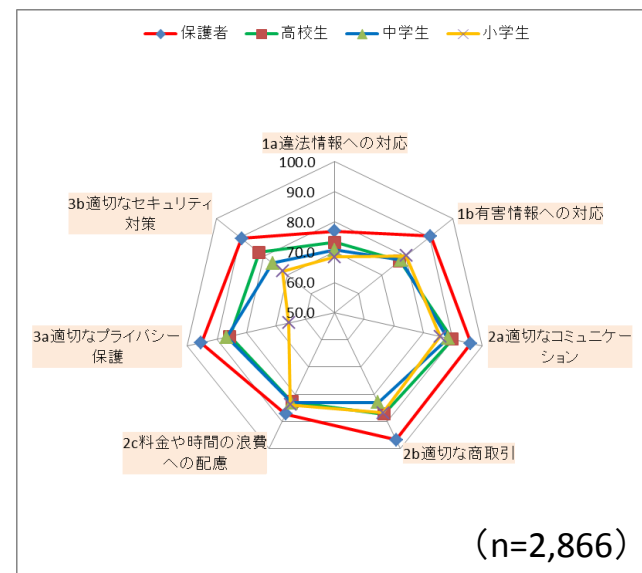
2016年度



	保護者	高校生	中学生	小学生
1a違法情報への対応	80.7%	62.4%	70.3%	64.5%
1b有害情報への対応	89.8%	78.8%	70.0%	64.6%
2a適切なコミュニケーション	94.5%	91.2%	88.2%	74.6%
2b適切な商取引	92.7%	85.5%	78.0%	72.7%
2c料金や時間の浪費への配慮	87.0%	87.1%	84.4%	75.9%
3a適切なプライバシー保護	94.5%	89.6%	85.8%	56.2%
3b適切なセキュリティ対策	87.9%	83.8%	75.4%	65.2%

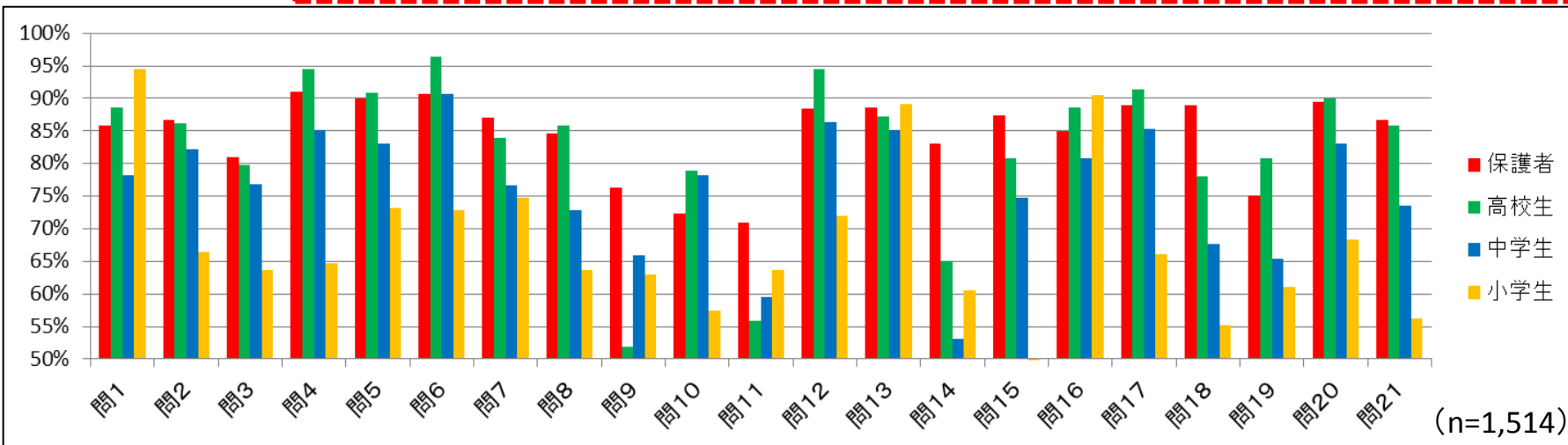
前年度同様、「1a違法情報への対応」（著作権侵害、出会い系サイト規制法）の正答率が低い傾向にあります。

(参考)2015年度



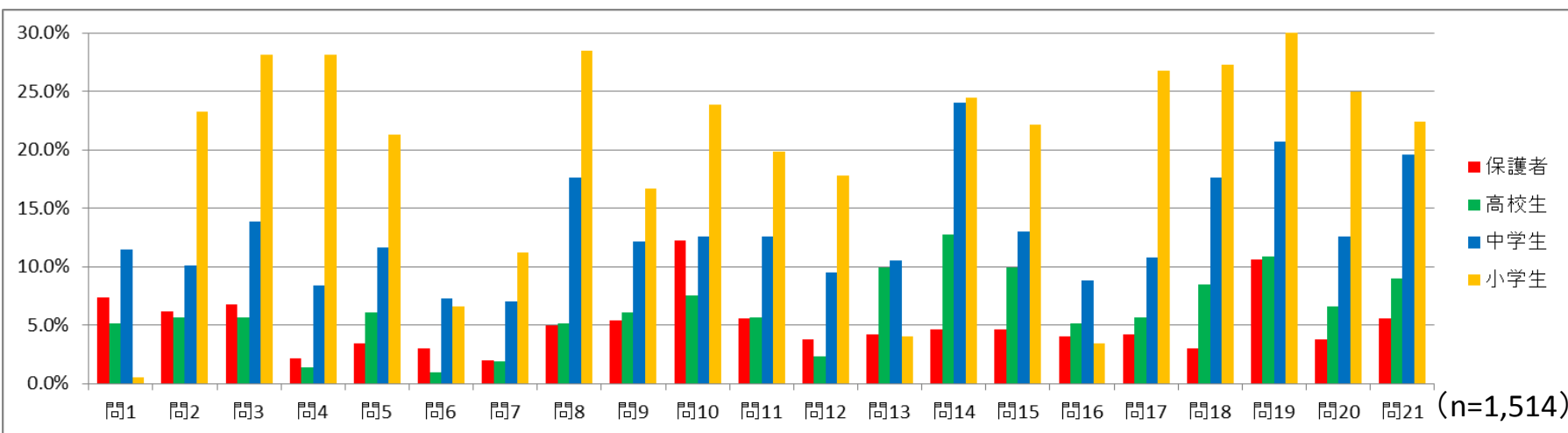
# 【設問別の正答率、不認識率】

◆ 設問別正答率 ※歌詞の著作権、ゲーム課金、出会い系サイト規制法、環境整備法等法律系の正答率が低い



◆ 設問別不認識率 (各設問の全回答の中で、「言葉の意味がわからない」を選択した割合)

※環境整備法、セキュリティ対策、ウィルス対策の認識率が低い



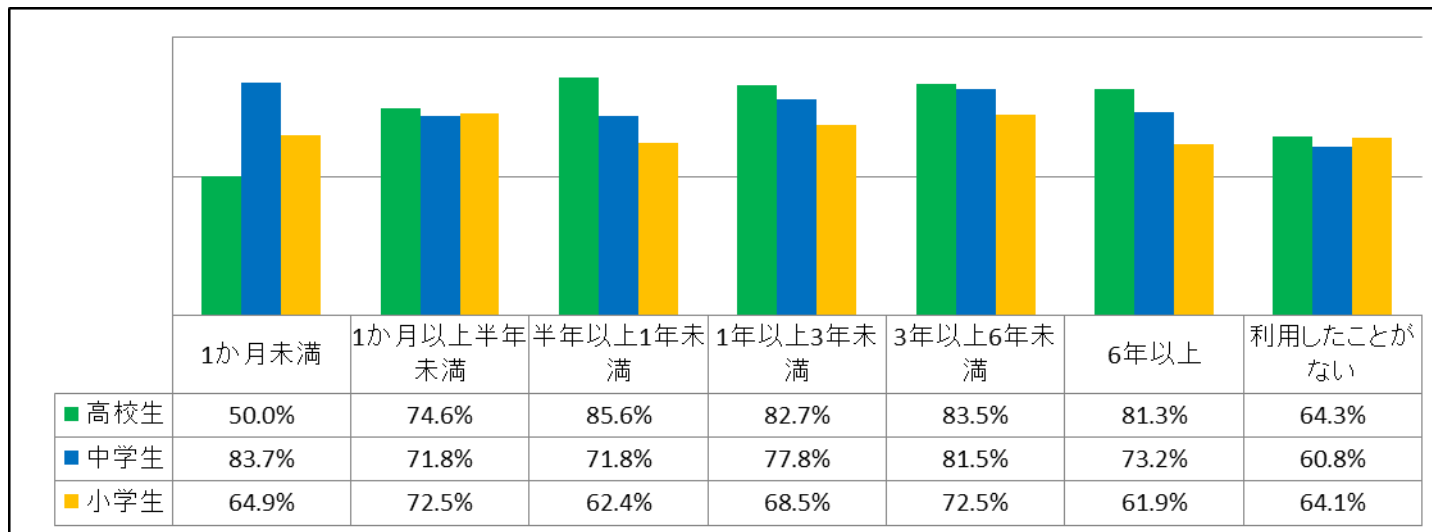
# 【問題 / リスク分類 / 趣旨】

## ※問題カテゴリと趣旨

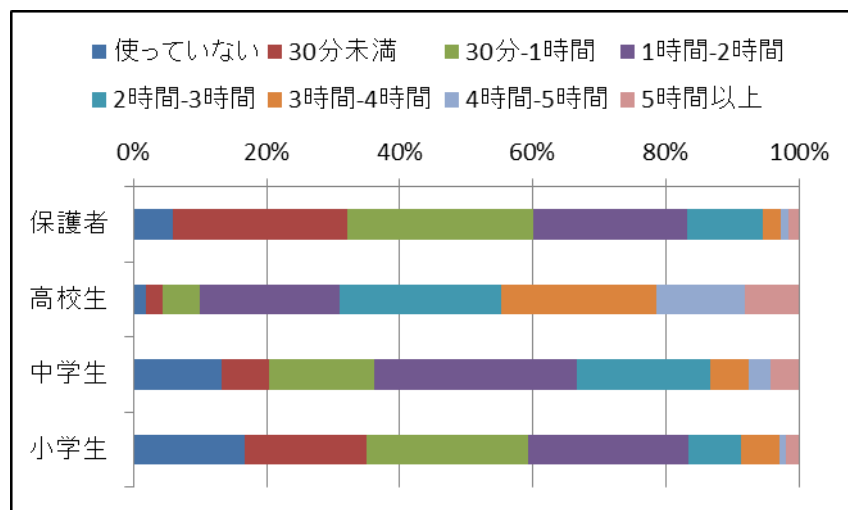
※問題カテゴリと趣旨		正答率:低い	
1	2c利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる	ゲーム時間に対する配慮	
2	1b有害コンテンツ理解	フィルタリング設定の必要性	
3	1a違法コンテンツ理解	著作権侵害	
4	2a適切なコミュニケーション	ネットいじめ	
5	3aプライバシー保護	アプリへの理解	
6	3aプライバシー保護	撮影と掲載許可	
7	3b適切なセキュリティ対策	歩きスマホ	
8	1b有害コンテンツ理解	ID掲示板での出会い、犯罪の可能性	
9	1a違法コンテンツ理解。	歌詞の著作権	
10	2c利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる	ゲーム課金	
11	1a違法コンテンツ理解。	出会い系サイト規制法の理解	
12	2c利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる	ネット依存	
13	2a適切なコミュニケーション	親への相談	
14	1b有害コンテンツ理解	環境整備法	不明率: 高い
15	3aプライバシー保護	掲示板への対応	
16	2b電子商取引の理解	不正請求への対応	
17	2a適切なコミュニケーション	不適切投稿	
18	2b電子商取引の理解	クレカの使用者範囲	
19	3b適切なセキュリティ対策	セキュリティソフトの知識	不明率: 高い
20	2b電子商取引の理解	怪しげな儲け話	
21	3b適切なセキュリティ対策	ウィルス対策	不明率: 高い

# 【インターネットの利用状況】

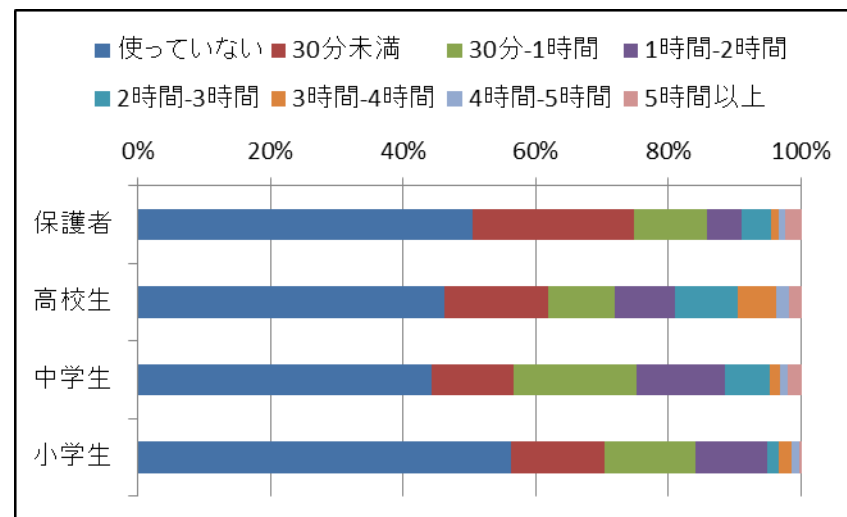
## ◆ インターネットの利用期間



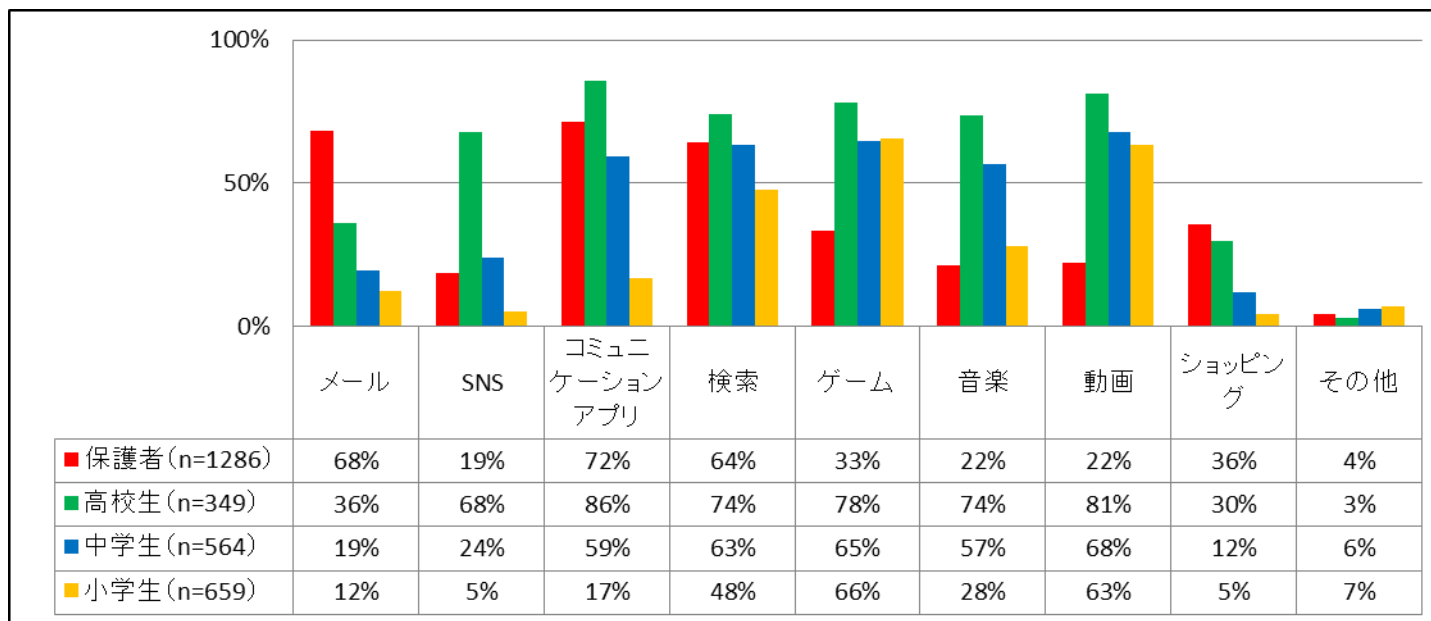
## ◆ インターネットの利用時間 (モバイル)



## (パソコン)

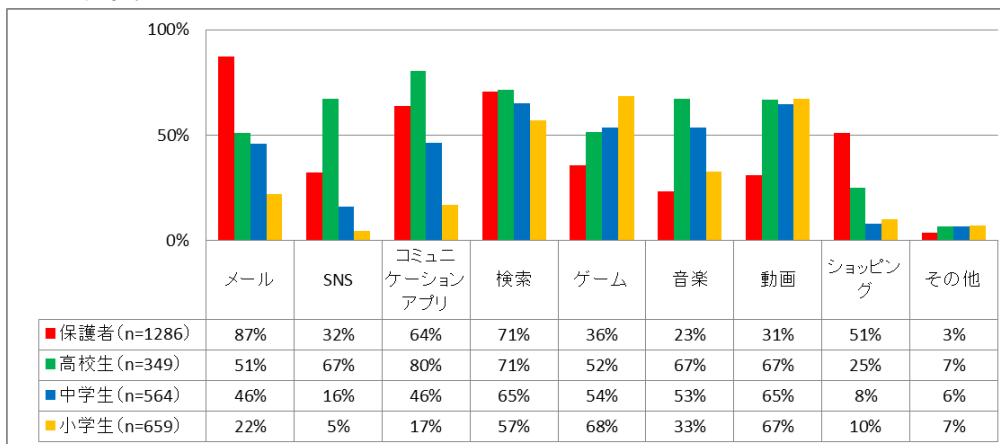


# 【利用しているサービス】



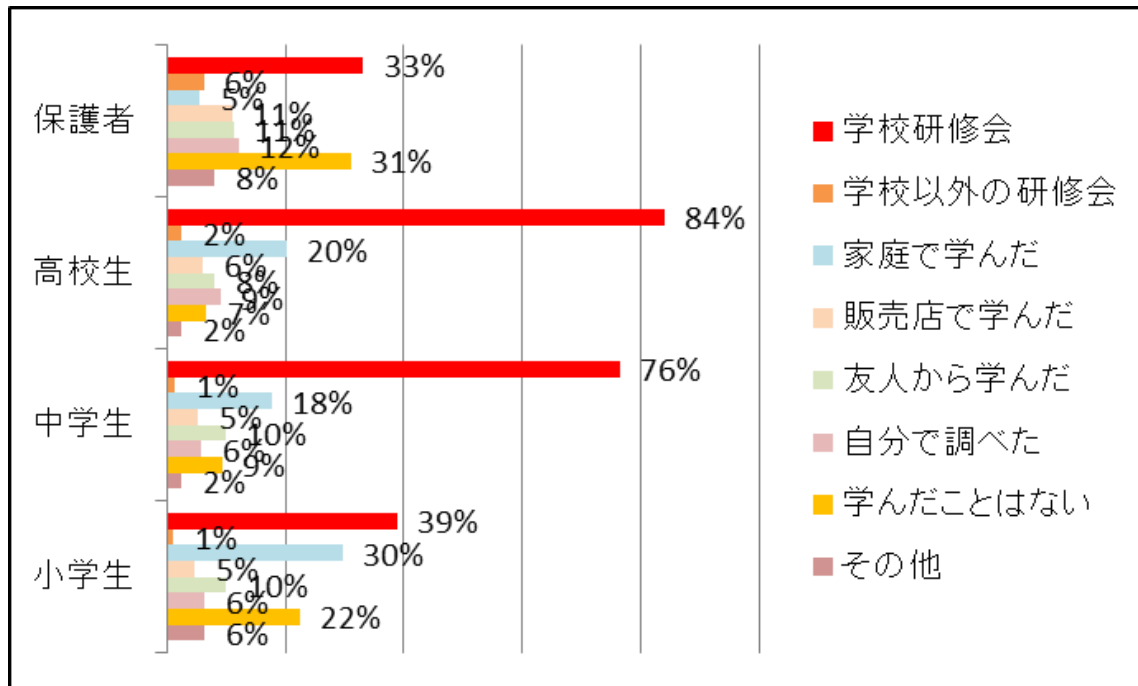
※SNS (Facebook・Twitterなど)  
※コミュニケーションアプリ (LINEなど)

(参考) 2015年度



全体的にメールの利用は低く、  
高校生のSNS、コミュニケーションアプリの利用が他の年代よりも高いと言えます。

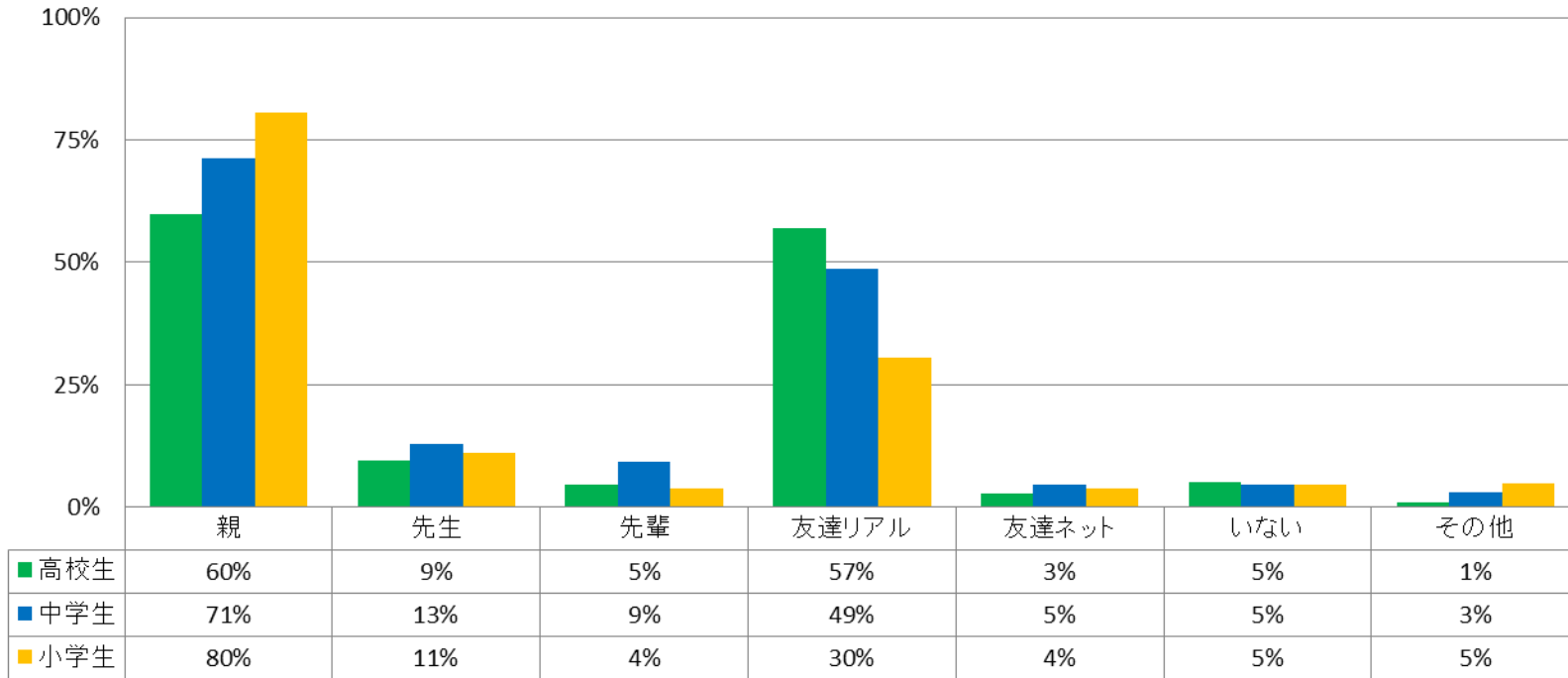
## ◆ インターネットの啓発経験



- ・ 学校研修会での経験率は高い。
- ・ 保護者の半数はなんらかの研修経験があるが31%が「学んだことはない」という回答。
- ・ 青少年は学齢に応じて研修経験率上がる。
- ・ 小学生のうちには家庭での啓発が多い。



## ◆ 青少年の相談相手

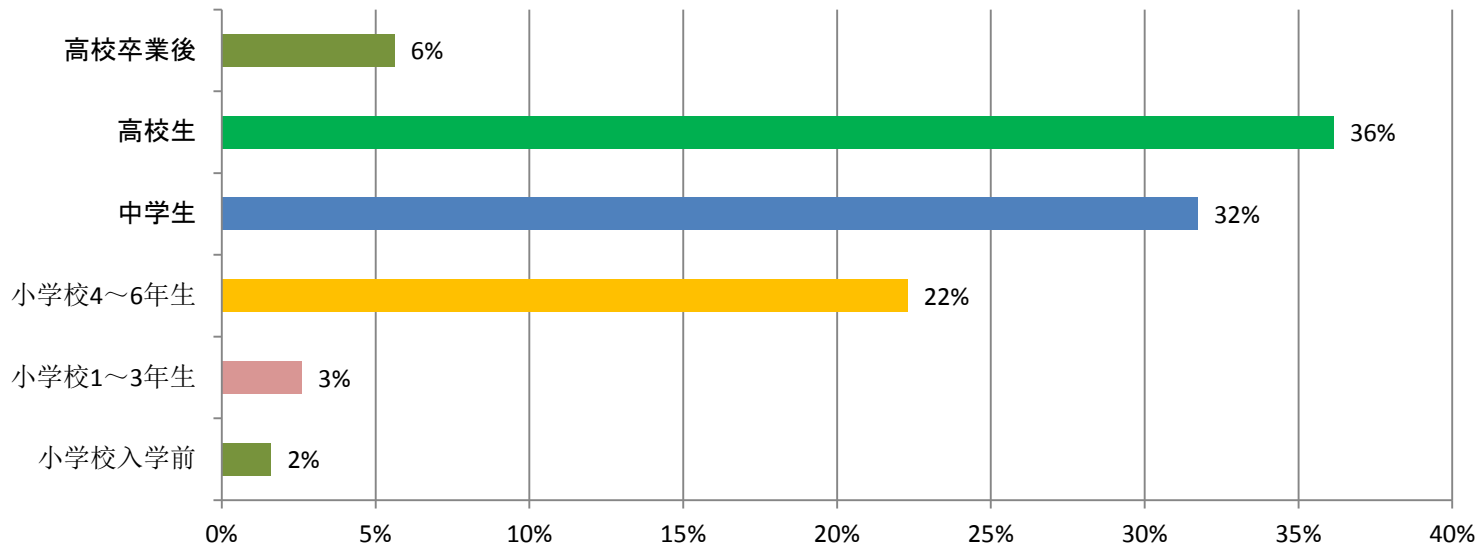


小学生は親が多く、中高と学齢が上がると友人リアルも増える傾向にあります。  
(昨年も同様)

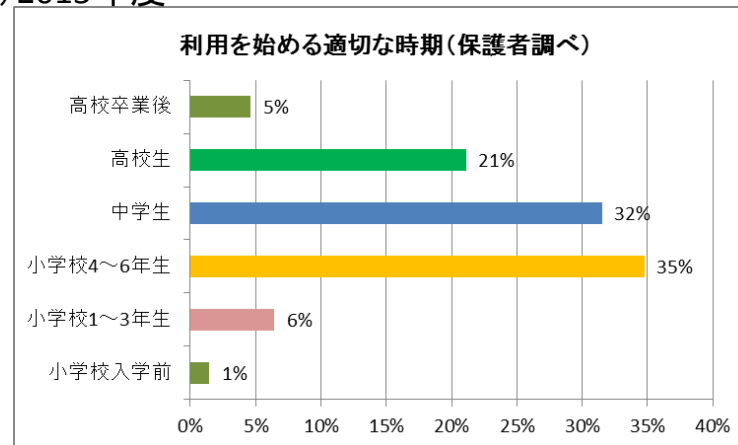
# 【その他】 (参考データ)

## ◆ 保護者アンケートより: 青少年がインターネットを始める適切な時期

利用を始める適切な時期(保護者調べ)



(参考)2015年度





## 4. 安心協ILAS活用事例

### ◆ アプリ、サービス

- デジタルアーツ株式会社「i-FILTER」
- エースチャイルド株式会社「Fili (フィリー)」
- ソフトバンク株式会社「ILAS 7」
- KDDI株式会社「ネットスキル診断」

### ◆ 研修会での活用

(情報モラル研修の前に実施し現状把握、事後に実施しおさらいに活用、等)

- 川崎市PTA連絡協議会 (2015年 7月実施、700名)

## 教育

標的型攻撃への組織的対策として従業員・職員・児童の情報セキュリティ教育のニーズも高まっていることから、1日1問、初回のインターネットアクセス時に情報セキュリティに関する選択問題を表示し、合格して初めてインターネットアクセスを可能にする「Test Board」を搭載。

「Test Board」に搭載されているサンプル問題は、日本の企業・団体のITリテラシー・セキュリティ向上と教育の普及に従事されている下記の4団体に提供いただき、無料での利用が可能です\*。

\*Ver.9.30R01以降で利用可能です。



特許出願中

- Test Boardを利用可能な状態にある小中学校は全国で1,885校  
※i-FILTER Ver.9.4以上を利用の小中学校数（2017年1月末時点）
- 教職員向けのITリテラシー強化策としての高評価も

- ▶ SNS・コミュニケーションアプリを家庭で見守るツール **Fiii**(フィリー)に対しユーザは一貫したトータルソリューションを求めている

啓発

検知  
(ツール)


対応・対策

安心協ILASを活用して  
保護者・子ども向けの「啓発」コンテンツを提供する

- ▶ 週1問のリテラシ向上クイズ形式と、全問回答形式で提供

ポイントはこちら！

親子で結果を共有 ⇒ 親子の会話につながるネタを提供

- ▶ 既存のILASデータ(2015年度報告)との比較を提示
- ▶ リテラシが低い分野に関して、
  - ▶ 保護者に一般的な注意喚起と対策情報を提示
  - ▶ 気を付けるべきこと、対応するFiii機能と活用方法をレコメンド
  - ▶ 弊社メディア  つながる世界の歩き方 の記事をレコメンド

□ <http://tsunaseka.jp/>



## ILAS7（抜粋版）

保護者研修会のアンケート用紙に挿入して「帰りに答えを渡す」「講師が回答を伝える」などに利用

	リスク分類	趣旨	問題	回答	解説
1	1a違法コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる	著作権侵害	違法（いほう）なサイトと知っていて、そのサイトから音楽をダウンロードをすると著作権侵害（ちょさくけん しんがい）になる。	○	自分で楽しむだけだとしても、違法なサイトからダウンロードすることは、著作権の侵害になります。たとえ無料でも公式なサイト以外から音楽をダウンロードしてはいけません。
2	1b有害コンテンツの問題を理解し、適切に対処できる	フィルタリング設定の必要性	携帯ゲーム機はスマホより安全なので、インターネットを使うときにフィルタリングの設定はいらない。	×	携帯ゲーム機も、パソコンやスマホと同じインターネット接続機器です。安心して楽しく使えるように、危険から身を守る必要があります。親子でフィルタリングの設定や、利用のルールを考えましょう。
3	2a情報を読み取り、適切にコミュニケーションができる	不適切投稿	友だちがイタズラをしているようすを動画で撮影（さつえい）し、ネットで公開しても、撮影した人は見てただけなので、イタズラ行為（こうい）の責任はない。	×	イタズラの内容によっては、「見てただけだから」「撮影してただけだから」、では済まされない場合があります。社会のルールを守って責任ある行動をとりましょう。
4	2b電子商取引の問題を理解し、適切に対処できる	クレカの使用者範囲	家族のクレジットカードなら、ネットで買い物をするとき、本人の許可をもらえば使ってもかまわない。	×	クレジットカードは、カードに名前が書いてある「名義人（めいぎにん）」しか使ってはいけません。インターネットでほしいものを見つけたら、まずは保護者に相談をしましょう。
5	2c利用料金や時間の浪費に配慮して利用できる	ゲーム課金	無料と書いてあるサイトでも、ゲーム中にお金がかかる場合があるので、注意が必要。	○	ゲームに参加することは無料でも、ゲームの中で利用できるレアアイテムの入手や、ゲームステージを先に進む場合に有料となる場合があるので注意しましょう。ゲーム内で使えるバーチャル通貨も、現実のお金と同様に考えて、大切に使いましょう。
6	3aプライバシー保護を図り利用できる	撮影と掲載許可	友だちといっしょにとった写真をブログにのせるときは「著作権（ちょさくけん）」に配慮（はいりょ）して、自分が撮影（さつえい）した写真を使うとよい。	×	「肖像権（しょうぞうけん）」という権利が、勝手に写真をとられたり、使われたりしないようにみなさんを守っています。たとえ友だちでも、勝手に写真をネットにあげてはいけません。友だちやその保護者に事前に確認を行いましょう。
7	3b適切なセキュリティ対策を講じて利用できる	セキュリティソフトの知識	スマホのウイルス対策ソフトを入れると、新しいアプリをインストールできなくなると聞いて、対策ソフトを使うのをやめた。	×	ウイルス対策ソフトは、スマホを安全に使うために必要なソフトです。もし、新しいアプリがインストールできないことがあった場合は、利用すると危険のあるアプリなのかもしれません。

※問題文および解説文は、総務省によるILAS「青少年がインターネットを安全に安心して活用するためのリテラシー指標」に基づき安心ネットづくり促進協議会が作成したILASテストを、ソフトバンク株式会社、ヤフー株式会社の協力により、再編集して掲載しています。



ILASをベースとしたスキルチェックをお子様  
体験してもらうことを通じて、青少年保護関連  
サービスに関する保護者の認知率向上を狙う



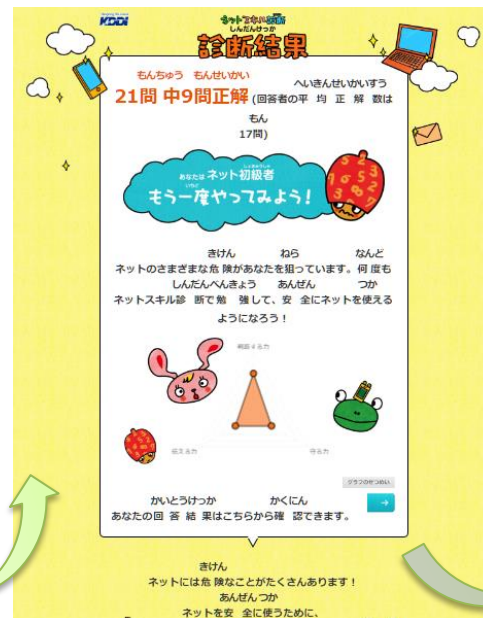
トップページ



クイズにチャレンジ



答え合わせ



結果発表



保護者の方へ

## ●サブワーキングからの提言●

フィルタリングサービス等の安心安全サービスの利用・提供にあたり、利用者のリテラシーを事前評価する

例)

・フィルタリング「新モード(高校生プラス)」を利用してよいと考えられる青少年の要件については、店頭での対応により十分に配慮されるべきものであるが、店頭でのお客様の負荷や対応の煩雑さを低減するため、あるいは利用者・保護者の啓発という面から、来店前に「安心協ILAS」テストを実施し、結果をもって来店することで利用者自身の理解度や知識の不足な個所を把握し、適切なサービスをご案内することにつなげることができないか。

